



ネイチャーポジティブの実現に向けた「自然に根ざした解決策」を評価

日本自然保護協会がみなかみ町に「ネイチャーポジティブ自治体認証書」を授与

4/9

公益財団法人日本自然保護協会（土屋俊幸理事長）から「ネイチャーポジティブ自治体認証書」がみなかみ町に授与されました。この認証は、地域の生物多様性保全と自然回復を推進するネイチャーポジティブに取り組む自治体のうち、同協会が定めるの基準を満たした自治体に与えられるものです。

今回の認証取得では、地域ぐるみで「人と自然が共生するまちづくり」に取り組んでいることや活発な環境教育活動が行われていることなどが高く評価されました。



▲外来生物を駆除するかいぼり



▲シカの低密度管理



▲自伐型林業研修



▲阿部町長（左）、土屋俊幸理事長（右）

阿部町長は「これまでの取り組みの方向性が間違いではなかったと認められ喜ばしい。みなかみ町の自然は、地域全体の財産であり、未来に向けた誇りです。これからも持続可能な形で自然との共存を目指します。」と意気込みました。

この認証取得は、町制20周年を迎えるみなかみ町にとって地域の自然と共生する取り組みの新たなスタートとなります。



町全体で有機農業に取り組む姿勢を示す

オーガニックビレッジ宣言

3/18

有機農業等を通じて豊かな自然を守っていくとともに、中長期的な視点から、みなかみ町の農業の振興、発展、またブランド力の強化に向けて取り組む「オーガニックビレッジ宣言」が行われ、約100名の関係者が出席しました。

式典では、地域全体の連携により、環境負荷低減を目指す循環型農業「みなかみスタイル」や有機農業の推進を図り、自然と調和した持続可能な町の未来を創造していくため、阿部町長が「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。



▲宣言を行う阿部町長



▲本多さん



▲竹内さん



▲小室さん

この宣言によって、町内で排出される食品の残り等を肥料にして農作物を栽培し、直売所や旅館、学校給食で提供する環境負荷低減・資源循環のしくみ「みなかみスタイル」の普及促進や有機農業者とその耕地面積を増加させるなど、段階的に有機農業の取り組みを進めていくことを目指します。

また町内で有機農法の試験栽培を行っていただく本多さん、竹内さん、小室さんが紹介されました。



まちの話題

= TOWN TOPICS =



日本ホッケー協会創立100周年記念

みなかみ町をホッケータウンとして認定 3/26

公益社団法人日本ホッケー協会は、協会創立100周年を記念し、ホッケー競技の普及振興に実績がある自治体や今後先駆的な取り組みが期待される自治体を「公式ホッケータウン」として認定する事業を行っています。

みなかみ町は、令和11年度に国民スポーツ大会のホッケー会場となることから、今後の取り組みが期待される自治体として「ホッケータウン」に認定されました。



▲特製ビジュアル



▲ホッケータウン認定証



▲阿部町長（左）、三須会長（右）

みなかみ町役場本庁において認定証の交付式が行われ、日本ホッケー協会（三須和泰会長）から阿部町長に認定証が交付されました。同時に「地域資産（ダムとスキー）×ホッケー」をイメージした特製ビジュアルが授与されました。これを機に、日本ホッケー協会との連携を強化し、ホッケーを通して、地域のさらなる活性化を図ってまいります。

地域おこし協力隊の活動

令和6年度地域おこし協力隊活動報告会を行いました 3/21

「令和6年度みなかみ町地域おこし協力隊活動報告会」が開催され、8名の隊員が1年間の活動成果を町民の皆さんに報告しました。自然観光の振興、農業、移住定住支援、スポーツを活かした地域活性化など、各分野で取り組んできた内容や、地域との関わりの中で得た学びや課題が語られました。

地域おこし協力隊は、都市部から地方へ移住した人材が、地域課題の解決や地域資源の活用に取り組む制度で、任期は原則1～3年です。全国の自治体が総務省の支援を受けて導入しており、地域に新しい視点や活力をもたらすことを目的としています。みなかみ町では今までに延べ29名の隊員が活動してきました。

今回の活動報告会の様子は、インターネットでライブ配信され、町民の皆さんに隊員の取り組みを知っていただく貴重な機会となりました。アーカイブも残っているので興味のある方はぜひご覧ください。



▲活動報告会動画



▲地域おこし協力隊活動報告会



▲地域おこし協力隊の皆さん



まちの話題

= TOWN TOPICS =



スポーツから地域貢献の輪が広がり、若い世代の暮らしを応援

株式会社ソルジェンテ群馬と小田原緑化開発株式会社が町へ寄附

4/8

株式会社ソルジェンテ群馬（高橋義人代表取締役）から企業版ふるさと納税として寄附をいただきました。ソルジェンテ群馬は、2023年の夏に利根沼田地域を活性化することを目的に設立された総合スポーツクラブを運営しています。2025シーズンはホッケー2チーム、サッカー2チームの計4チームが活動しており、みなかみ町内の企業や営業所で働きながらプレーをしている選手も在籍しています。



▲左から狩野淳さん、高橋義人さん、阿部町長、鈴木雄也さん

また、ソルジェンテ群馬のクラブ代表である小田原茂さんが代表取締役を務める小田原緑化開発株式会社からも企業版ふるさと納税として1,000万円の寄附をいただきました。同社は県内を中心に各地で伐採・造園・土木・建設事業を手がけています。

今回いただいた寄附金は、若い世代が安心して暮らし、結婚・出産・子育てしやすい環境をつくる事業に役立てていきます。



▲小田原茂さん（左）、阿部町長（右）



アウトレットセールの売り上げから寄附

株式会社BMZ 寄附

4/4

インソールなどの製造販売を行う株式会社BMZ（高橋毅取締役社長）より、アウトレットセールの売上から10万円を寄附していただきました。

今回のアウトレットセールでは、足の無料測定会や鍼灸師によるフットケアマッサージ、キッチンカー出店など、多数のイベントが同時に開催されたほか、群馬ヤクルト販売株式会社と共催でヤクルトの無料配布やクイズイベントも実施されました。



▲岡庭絵莉さん（左）、林佳男さん（中）、阿部町長（右）



住民と各行政機関の橋渡し役

行政相談委員の紹介

4/1

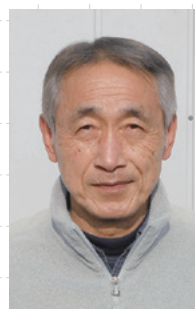
高橋治男さん（上区）、吉田進さん（小仁田）、岡田宏一さん（湯宿）の3名が総務大臣から行政相談委員として委嘱されました。高橋治男さんは新しく選任され、吉田進さんと岡田宏一さんは再任されました。

行政相談委員は、国や他の行政機関に対する住民からの苦情や相談を受け付け、相談者への助言や関係機関に対する改善の申入れなどを行っています。

なお、定期相談を町社会福祉協議会が行う心配ごと相談の中で開催しています。お気軽にご利用ください。



▲高橋治男さん



▲吉田進さん



▲岡田宏一さん



まちの話題

= TOWN TOPICS =



廣池千九郎が最晩年を過ごした4つの施設

国の有形文化財に登録 3/13

教育者・廣池千九郎（ひろいけ ちくろう）が最晩年を過ごした4つの施設（麗澤館、神壇、脱衣所、偲ぶの湯）が国の有形文化財に登録されました。

これらの施設は、温泉に恵まれた谷川と大穴に建てられ、入手しやすく加工の手間を抑えた杉の建材が使用されています。令和7年度は改修のため、公開はありません。町内の国登録有形文化財は、法師温泉長寿館の3棟に続いて、2件目です。



▲麗澤館（れいたくかん）外観



臨床心理学の知見から相談のコツを学ぶ

コミュニケーション技法研修を開催 3/25

令和6年度研修会みなかみ町民生委員・児童委員研修「コミュニケーション技法」が開催され、利根沼田地区の各委員約100名が出席しました。

この研修は住民からの相談を受けた際に必要なコミュニケーション方法を理解し、民生委員・児童委員活動のさらなる拡充を目的としており、講師にグループ・インサイト「こころの相談室」代表の加藤昌弘さんを招いて90分間の研修が行われました。



▲研修の導入で臨床心理学の基礎を解説する加藤昌弘さん



地元の小学生が華麗な舞を奉納

月夜野神社春季例大祭 4/13

月夜野神社春季例大祭が行われ、五穀豊穡・地域の安寧などを祈願し、太々神楽と浦安の舞が奉納されました。浦安の舞では、地元桃野小学校の女子児童が、厳かな雅楽の演奏に合わせて華麗な舞を奉納し、清らかな鈴の音が境内に響きました。

日本語で「浦」は「こころ」、「安」は「安らぎ」を意味するとされ、浦安の舞には「波のない穏やかな平和」を祈るという思いが込められています。



▲浦安の舞



地域農業の維持活性化に多大な貢献

本多貞良さん土地改良功労者表彰 4/10

土地改良事業の推進や運営に功績のあった個人・団体を表彰する全国土地改良功労者表彰を本多貞良さん（東峰）が受賞しました。

本多さんは、赤谷川沿岸土地改良区の役員を30年以上にわたり歴任し、農地区画や用排水路の整備に尽力されてきたほか、にいほりこども園や新治小学校の農業体験を支援するなど、地域農業の維持活性化に積極的に取り組まれています。



▲本多貞良さん（左）、阿部町長（右）



ご入園・ご入学おめでとうございます

町内のこども園と小中学校で入園式・入学式

4/7～8

春らしい暖かな天気が続くようになった4月上旬、町内こども園・小中学校では、入学式が行われました。こどもたちは、緊張しながらも期待に胸を弾ませて、新しい環境での第一歩を踏み出しました。

にいはるこども園 4/8

にいはるこども園では、27名の園児が入園しました。新入園児呼名では、先生の呼名に対し元気いっぱいの返事をする園児の姿が見られました。



月夜野北小学校 4/7

月夜野北小学校では、2名の児童が入学しました。大塚純子校長は「小学校6年間で『自分の好きなこと、得意なこと』ことをいっぱい見つけてください。『好きなもの、得意なもの』があることが頑張れる力になります。」と新一年生を歓迎しました。

みなかみ中学校 4/7

みなかみ中学校では、103名の生徒が入学しました。阿部忠博校長は全校生徒に対し「本校は学校のスローガンとして『みなかみプライド 互いに認め合い一人一人が輝くみなかみ中』を掲げています。広い町内の多くの小学校から生徒が集まってきますが、町で一つの中学校としてプライドを持って互いに認め合い、それぞれの良さを発揮して欲しいという思いが込められています。新たに新入生を迎え、このスローガン実現に向けて全校で取り組んでいきましょう。」と激励しました。

